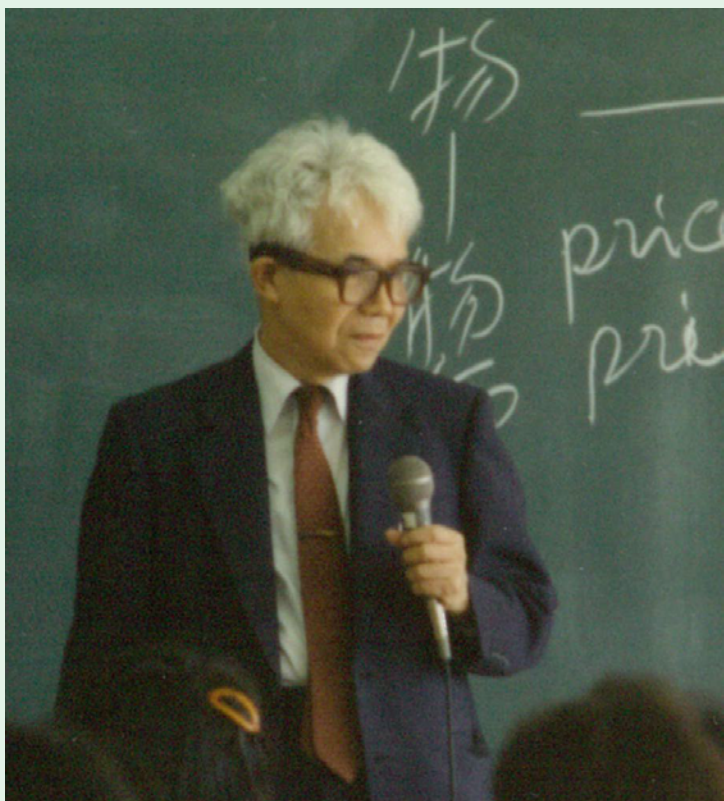


# 佐古純一郎の夏目漱石論

徳島県・神山町出身の文芸評論家・佐古純一郎（1919―2014年）は、二松学舎専門学校（現・二松学舎大学）在学中に亀井勝二郎に師事し、創元社に入社後は小林秀雄から指導を受けて文芸評論を発表。29歳の時に洗礼を受け、二松学舎大学で教えながら、大宰治、芥川龍之介などを対象に、キリスト教を基にした独自の評論を数多く残しました。本展では、その中から夏目漱石を論じた作品にスポットを当てて紹介します。



1986年頃、二松学舎大学で講義する佐古純一郎（二松学舎大学提供）



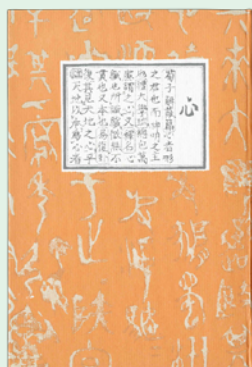
佐古純一郎『漱石の文学における人間の運命』(1957年 現代文芸社)



漱石論を収録した佐古の第1評論集『純粹の探求』(1951年 甲陽書房)



夏目漱石『三四郎』(1909年 春陽堂)



夏目漱石『こゝろ』(1914年 岩波書店)

2022年 6月21日(火)～8月28日(日)

○徳島県立文学書道館 3階 文学常設展示室

○午前9時30分～午後5時 ○月曜休館(7月18日は開館し、翌日休館。8月15日は開館)

○一般 310円(250円) 高校・大学生 200円(160円) 小・中学生 100円(80円)

※( )内は20人以上の団体割引料金。高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。

小・中・高校生は、土・日・祝日・夏休み期間中は無料。

